

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 5 月 30 日現在

機関番号：12603

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2015

課題番号：25760002

研究課題名(和文) 東地中海諸国の政治・社会における縁故主義についての実証的研究

研究課題名(英文) Corroborative Research on Local Connections in Politics and Society at Eastern Arab Countries

研究代表者

高岡 豊 (TAKAOKA, Yutaka)

東京外国語大学・外国語学部・研究員

研究者番号：10638711

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、シリアにおける地縁、血縁を通じた政治参加の実態を近隣諸国との比較や量的調査の手法を通じて解明することである。

期間全体を通じ、シリアと隣接国での政情の混乱や治安状況が悪化し、レバノン、ヨルダンでの現地調査などの作業の一部は断念を余儀なくされた。しかし、シリア紛争への国際的関心の高まりを受け、セントアンドリュース大学シリア研究所、チェコ科学アカデミー、トルコ中東戦略研究所で対外的な成果発信の機会を得るとともに、これらの機関を通じたネットワークの構築を達成した。また、シリアのアサド政権による地縁、血縁集団の選択的取り込みの実態を明らかにし、紛争の実態把握のために重要な成果を上げた。

研究成果の概要(英文)：This research aimed political participation through kinships or territorial connections in Syria. To achieve the aim, comparative observation with neighboring countries and quantitative measure are considered as the tools.

As security situations in Syria and neighboring countries grew worse during the period, some field research in Lebanon, Jordan forced to be canceled. However, as international concerns on Syrian conflict rose, there were opportunities to present at St. Andrews University Syrian Study Center, the Academy of Science Center for Middle Eastern Strategic Studies (Turkey), and succeed to make academic connections through these institutes. Furthermore, the research revealed practices of a selective cooptation by Syrian regime through kinships or territorial connections, then provided important implications to understand Syrian conflict.

研究分野：地域研究

キーワード：シリア イラク 部族 シリア紛争 イスラーム国 地域研究

1. 研究開始当初の背景

アラブ諸国の多くでは、議会制度を備え一定の政治的多元性が認められていても、議会、選挙、政党の活動が民主主義の発展に寄与しない例が多数みられた。そのような諸国では、議会が権益の配分や政治的取り込みの道具として、非民主的な政治体制を擁護する役割さえも果たしている。このような見解は、反体制運動を分断して体制安定・存続を図る「分断型競合構造」、「競合的クライエントリズム」を議論した Ellen Lust-Okar に代表される。こうした役割に着目し、シリアにおける地縁・血縁を通じた政治参加と取り込みの実態を実証的に解明することは、シリアの政情の分析や紛争の実態解明に寄与することが期待された。とりわけ、2011年3月にシリアで反体制抗議行動が始まり、治安情勢が悪化して全面的な戦争状態に陥る中、アサド政権は多くの専門家の予想に反して存続した。本研究は、アサド政権が地縁・血縁を経路としてシリア社会の様々な構成要素の政治参加・取り込みを実現したことが同政権の強健性を説明する一つの理由となるとの仮説に基づく。そして、本研究はレバノン、イラク、ヨルダンなどの近隣諸国に比べて不足していると思われる、シリアの政治主体についての情報の収集と分析を通じて現在のシリア情勢を分析する上で有用な分析枠組みを提起することが可能になるとの着想で計画された。

2. 研究の目的

本研究は、議会が政治的権益の配分や政治的取り込みの道具として非民主的な政治体制を擁護する役割さえも果たしているとの役割に着目し、シリアでの地縁・血縁を通じた政治参加の実態を、近隣諸国(レバノン、イラク、ヨルダン)との比較や量的調査との相互補完を基に明らかにすることを目的とする。これに加え、2011年以降の紛争下のシリアにおいては、議会、内閣、宗教・宗派集団、部族、名家などに関連する文献資料が散逸・消失する危険性が高まりつつあったため、これらの資料の収集と保全も本研究の目的に含まれる。

3. 研究の方法

シリアの議会と近隣諸国(レバノン、イラク、ヨルダン)の議会との選挙制度や議会構成との比較、及び世論調査などで明らかになった各国の国民の政治意識との相互補完を通じて、シリアの政治において地縁・血縁のような縁故が果たす役割を解明する。研究方法は以下の三点を柱とする。

(1) シリアにおける文献資料・公的記録の収集と保全：シリアの治安情勢に鑑みると、既存の文献資料や公的記録の一部ないし全部が失われる可能性も否定できないため、その収集と保全、及びそれらを活用した情報分析に努める。

(2) 叙述的情報と公的記録の照合：シリアの諸社会集団・政治主体、特に部族の政治参加の実態については、聞き取り調査などによって得られた叙述的情報と実際の議員や閣僚の名簿の記載との不一致・乖離が目立っている。そのため、双方の情報を照合し、より精度の高い情報として整理する。

(3) 地縁・血縁を通じた政治参加の実態を量的調査の成果を踏まえて検証する：これまでの研究の成果を通じ、シリア、レバノン、イラクの諸国民の政治・社会的経験や意識は、必ずしも既存の諸説と一致してないことが明らかになっているため、叙述的情報を自明視することなく、量的調査の成果と照合する。そこでは、単に両者の一致・不一致を指摘するだけではなく、地域研究の視点から一致・不一致の原因を分析する。

上記の方法に基づき、現地調査を行って情報と資料を収集するほか、シリア、イラクについては治安の悪化により現地調査が困難なため、レバノン、ヨルダンに研究活動のための基盤を構築するための出張を行う。

4. 研究成果

シリア、イラクについては、計画段階から現地への出張が困難なことが予想された。これに加え、2015年1月末にシリアで「イスラーム国」による邦人2名の誘拐・殺害事件が発生した影響や、シリアからの難民の流出が原因で隣接するレバノン、ヨルダンにおいても情勢が悪化した。この結果、2015年1月に予定していたヨルダン出張は残念せざるを得なくなった。その一方で、シリアからは多くの人々が海外に流出しており、彼らから情報を収集することによりこれを補うことに努めた。

レバノン、イラク、ヨルダンの国会においては、成文、あるいは不文律の形で、宗教・宗派集団、民族集団、地縁・血縁集団のいずれかに議席を配分する制度が確立しているのに対し、シリアにはそのような制度は存在していない。にもかかわらず、本研究を通じてシリアの国会でもシリア国内の様々な宗教・宗派集団、民族集団、地縁・血縁集団を網羅する形で議員が選出されていることが明らかになった。これは、シリアのアサド政権が国会にシリア社会の構成要素の多くの代表を取り込むことを通じ、幅広い権益配分のシステムを確立し、非民主的な性質を隠蔽・補償していることを意味する。その一方で、イスラームの宗教界の取り込みが一部の地域・人脈に限定されたり、複数の有力部族からの代表の選出が全く見られなかったりしたことも確認された。このような実態は、シリアでの紛争勃発と激化に関し、シリア国内の政治的・社会的要因を説明する上で非常に意義深いと思われる。

具体的には、シリアにおけるアルメニア人の議会への参加の実態が興味深い。2011年のシリア紛争勃発前の時点でのアルメニア人の

人口は、2300万人程度の全人口中10万人弱であった。それにもかかわらず、独立以来2008年の選挙までアルメニア人の議員を最低1名は輩出し続けており、明示的な割り当てがないに中でも、宗教集団、あるいは民族集団としてアルメニア人の代表を議会に取り込む仕組みが機能していたことを意味する。本研究を実施する過程でアルメニアのディアスポラ省から得た情報によると、2014年末の時点でシリアに居住するアルメニア人の人口は2万人以下に減少している模様である。この結果、2012年に実施された選挙ではアルメニア人と判別できる議員はいなくなった(ただし、2016年4月に実施された選挙ではアルメニア人とみられる議員が2名当選した)。このような状況は、シリアにおけるアルメニア人の主な居住地だったアレppoで激しい戦闘が続いていること、イスラーム過激派の活動活発化により非ムスリムの多くが難民・国内避難民となったことが考えられる。

また、研究実施期間中「イスラーム国」の台頭が国際的に重大な関心事項となったが、同派がヒト、モノ、カネなどの資源を世界各地から調達してシリアやイラクに送り込んでいることが問題となった。さらに、イラクにおいては、国内の政治的な権益争いの文脈で諸部族の一部が「イスラーム国」と連携したと指摘されている。本研究は、「イスラーム国」による資源調達のメカニズムの中でシリアとイラクにまたがって居住する諸部族が果たしうる役割について、資源の越境移動を手引きする「案内者」としての役割を担っている可能性があることを指摘した。これは、本来はシリア、イラクにとって外来の存在である「イスラーム国」などの諸派が、短期間のうちにシリアやイラクへの資源の送り込みの経路を確立することは困難であり、牧畜や密貿易、親族のネットワークを通じてシリア、イラク、トルコ間を往来していた地元の住民が経済活動の一環として資源の移動を手引きしていた実態が明らかになったことを踏まえている。イラクの諸部族が「イスラーム国」を支持している問題については、2006年ごろから主にアメリカ軍が養成した部族の民兵集団が武装解除にも軍や治安部隊のような公的な機関への統合もできないままイラクの政治過程に参入しようとしていた問題を指摘した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計5件)

1. 浜中新吾、溝淵正季、高岡豊 2016 「紛争地帯での国内政治と国際政治の連関 - 自然実験によるレバノン市民の態度変容へのアプローチ - 」 『レヴァイアサン』58号

110-131頁 査読有

2. 高岡豊 2015 「現代シリアにおけるアルメニア人の政治活動」 私市正年編『アジア・アフリカにおける諸宗教の関係の歴史と現状』69-80頁 査読無

3. 高岡豊 2015 「イスラーム国」とシステムとしての外国人戦闘員潜入 『中東研究』522号 18-31頁 査読無

4. 高岡豊 2014 「イスラーム過激派とマシュリク社会 - 「アラブの春」とテロリズムの将来 - 」 『アジア経済』vol.55 No.1 53-66頁 研究ノート。査読有

5. 高岡豊 2014 「シリア - イスラーム過激派の伸張とその背景」 『中東研究』519号 37-51頁 査読無

[学会発表](計8件)

1. TAKAOKA Yutaka 2016.3.1 “Observations on the mechanism of mobilizing resources in the Islamic State” symposium “Japan-Turkey Dialogue on World Affairs” Center for Middle Eastern Strategic Studies (ORSAM) Turkey (Invitation)

2. 溝淵正季、高岡豊 2015.10.11 なぜ彼らはジハードに向かうのか? 欧州在住アラブ系移民・難民と外国人戦闘員問題 日本政治学会2015年研究大会

3. TAKAOKA Yutaka 2015.9.11 “Problems After the “Arab Spring:” “Extreme” militants and “Moderate” militants” National Institutes for the Humanities of Japan (NIHU) Program for Islamic Area Studies (IAS) - Fifth International Conference, Tokyo 2015: “New Horizons in Islamic Area Studies - Asian Perspectives

4. TAKAOKA Yutaka 2015.7.1-3 “Regime survival and the People’s Council in Syria” “Syria: Moving Beyond the Stalemate” Centre for Syrian Studies St Andrews University

5. 高岡豊 2015.5.17 「アラブの春」とイスラーム過激派の利害得失 日本中東学会年次大会

6. 浜中新吾、溝淵正季、高岡豊 2014.11.16 「シリア避難民の流入がもたらすレバノン市民の態度変容」 日本国際政治学会2014年研究大会

7. TAKAOKA Yutaka 2014.5.29 “Traditional political forces in current conflict in Syria” “The Protest Movements in Contemporary Middle East” The Academy of Sciences of Czech Republic

8. TAKAOKA Yutaka 2013.6.17-19 “Infiltration of ‘Mujahidin’ into Syria: The Essence of the Problem” “The Syrian Uprising: Drivers and Dynamics” Centre for Syrian Studies St Andrews University

[図書](計 件)

〔産業財産権〕
出願状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者 高岡 豊(TAKAOKA, Yutaka)
東京外国語大学 外国語学部 研究員

研究者番号：10638711

(2)研究分担者
()

研究者番号：

(3)連携研究者
()

研究者番号：